

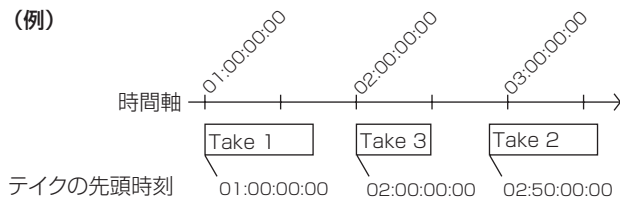
ファームウェアV1.20の新機能

RS-422端子を利用するSONY P2プロトコルに対応したエディター／シンクロナイザーのためのテープエミュレートモードを追加しました。

テープエミュレートモード

テープエミュレートモードとは、テープのような時間軸ベース動作をエミュレートするモードです。RS-422からのトランスポートコントロールにより、テープマシンのような動作を実現します。先頭位置を“00:00:00:00”としたテープ上に、それぞれのテイクのスタートタイムコード位置にテイクが記録されているように動作します。

(例)

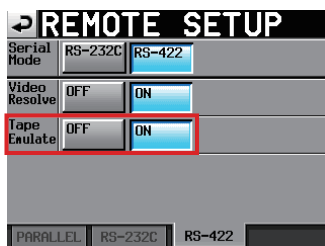


注意

現在ロード中のフォルダー内のテイクだけが再生対象となります。別フォルダーのテイクはテープエミュレート対象になりません。

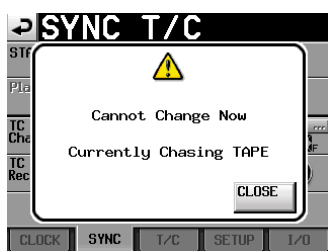
REMOTE SETUP画面・RS-422タブ画面の変更

RS-422のテープエミュレート機能の“ON” / “OFF” ボタンを追加しました。“ON” にすると自動的に一時停止状態になります。この機能は“Serial Mode”項目が“RS-422”の場合のみ有効です。



注意

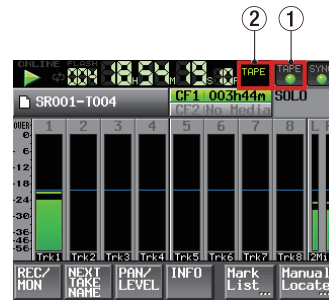
本機がテープエミュレートモードで再生動作中に設定を変更しようとする、下記ポップアップメッセージが表示され変更できません（一部設定を除く）。



設定を変更する場合は、一旦STOPキーを押して停止状態にしてから設定を変更してください。
変更が終わりましたら、PLAYキーやPAUSEキーを押すことでエミュレートモードに復帰します。

ホーム画面の変更

テープエミュレートモードがオンの場合、ホーム画面右上の左側インジケーターが“TAPE”の表示（①）となります。
エミュレートしているテープの時間に当てはまるテイクが再生中の場合は、このインジケーターが点灯します。
エミュレートしているテープの時間に当てはまるテイクがない場合は、このインジケーターが点滅します。

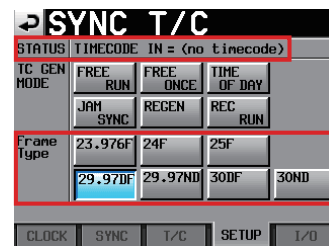


テープエミュレート機能がオンの場合、タイムコード表示（②）は下記の3種類に限定されます。

表示（②）	内容
“ ”	テイク先頭から経過時間を表示します。エミュレートしているテープの時刻に当てはまるテイクがない場合、次のテイクの先頭時刻を表示します。
“REMAIN”	テイクの終わりまでの残り時間を表示します。エミュレートするテープの時刻に当てはまるテイクがない場合、次のテイクの残り時間（テイクの長さ）を表示します。
“TAPE”	エミュレートしているテープの時刻を表示します。

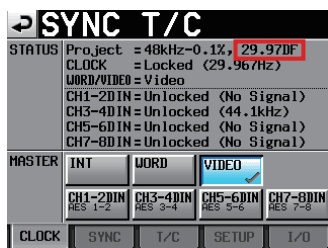
SYNC T/C画面・SETUPタブ画面の変更

- この画面の“STATUS”項目の表示内容を「プロジェクトのタイムコードのフレームタイプ」から「入力タイムコードのフレームタイプ」に変更しました。
- プロジェクトのタイムコードのフレームタイプを変更できるようにしました。ただし、再生、録音中は変更できません。



SYNC T/C画面・CLOCKタブ画面の変更

マスタークロックがVIDEOでテープエミュレートモードがオンの場合、VIDEOとタイムコードのフレームレート設定を一致させる必要があります。たとえばNTSC 29.97HzのVIDEOをマスタークロックにした場合、プロジェクトのタイムコードのフレームタイプを29.97DF、または29.97NDFに設定する必要があります。そのため、マスタークロックがVIDEOの場合、シンク、タイムコード設定（SYNC T/C）→ “CLOCK” タブ画面の “STATUS” 欄の “Project” 項目に、現在のタイムコードのフレームタイプを表示するようにしました。

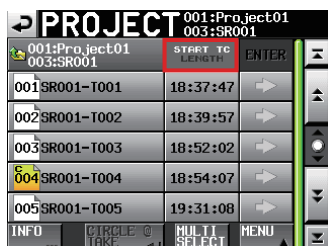


PROJECT画面の変更

テイク選択画面において、“START TC / LENGTH” と表示されたタイトル部分を押すと、テイク長の表示とテイクのスタートタイムコード表示が切り換えできるようになりました。

注意

テープエミュレート中は、テイクリストの “ENTER” ボタンやプルアップメニュー内のボタンは無効になります。



日本語表示に対応

日本語のフォルダー／ファイル名の表示に対応しました。
なお、本機での日本語入力はできません。

RS-232C経由でのChase ON/OFF切り換えに対応

RS-232C経由でのChaseオン／オフ切り換えに対応しました。

メモ

本機のRS-232Cコマンドプロトコルについては、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

SONY P2 RECコマンドに対応

SONY P2プロトコルのRECコマンドに対応しました。

メモ

本機のプロトコル対応へのについては、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

ファームウェアV1.20の修正項目

以下のポップアップメッセージの文章を変更しました。

旧メッセージ	新メッセージ	内容と対処方法	備考
CFn not recommended format for Recording/Playing.	メディア装着時： CFn formatting not optimal for Recording/Search. 録音開始時： CFn formatting not optimal for Recording.	メディアが本機でフォーマットされていないため、正常な録音／サーチ動作を保証できません。 本機でフォーマットしてからご使用ください。	n=1または2 本機の規定よりも小さいクラスタサイズでフォーマットされている際に発生。
CFn not recommended for Recording/Playing. (not UltraDMA)	メディア装着時： CFn not recommended type for Recording/Search. (not UltraDMA)	このカードは、システムの要求する仕様を満たさないため、正常な録音／サーチ動作を保証できません。	n=1または2

取扱説明書追補

外部機器で録音したファイルを取り込む

本機以外の機器で録音したBWF形式のファイルを取り込んで、再生することができます。また、TASCAM HSシリーズで作成された以下の要件を満たすファイルは、再構成（REBUILD）せずに再生することができます。

- トラック数が8トラック以下（サンプリング周波数が176.4kHz、192kHzの場合は4トラック以下）
- サンプリング周波数（Fs）が192kHz以下

注意

プロジェクトでは、再生できるサンプリング周波数（またはサンプリングレート／本機では“Fs”項目の設定値）が固定されるため、ファイルのサンプリング周波数とプロジェクトの“Fs”の値が一致している必要があります。

取り込み前の準備

取り込みたいファイルのサンプリング周波数（サンプリングレート）をあらかじめ調べておきます。

1. ファイルのサンプリング周波数と“Fs”が合っているプロジェクトを選択するか、新規にプロジェクトを作成する場合は、“CREATE PROJECT”画面－1ページ目の“Fs”項目をファイルのサンプリング周波数に合わせます。



2. 必要に応じてフォルダーを作成します。
3. 取り込みに使用したいプロジェクトとフォルダーの名前をメモするなどして覚えておきます。例として、プロジェクトを「PROJECT01」、フォルダーを「SCENE004」として説明します。
4. CFカードの挿入されているCFスロットのインジケーターが早い点滅をしていないことを確認してCFカードを取り出します。
5. CFカードを、パソコンなどのCFカードスロットに挿入します。このCFカードは、パソコンからは、本機でフォーマットした場合には《HS-8》というドライブとして認識されます。ここでは、ドライブ名が《HS-8》であるとして説明します。

6. 取り込みたいBWF形式のファイルを、《HS-8》の下層にあるプロジェクトフォルダー《PROJECT01》の更に下層にあるフォルダー《SCENE004》にコピーします。

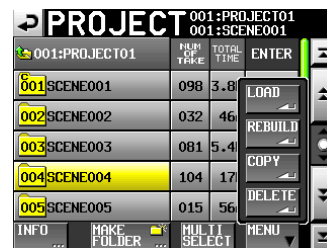
注意

CFカードに書き込みを行っている間は、CFカードを取り出さないでください。CFカードのデータが壊れ、データを読み出すことができなくなることがあります。詳しくは、お使いのパソコンなどの機器またはカードリーダーの取扱説明書をご参照ください。

7. CFカードをパソコンなどのCFカードスロットから取り出します。

取り込んだファイルを本機で扱えるようにする（フォルダーの再構成）

1. 本機のCFカードスロットに、ファイルをコピーしたCFカードを挿入します。
2. フロントパネルのPROJECTキーを押して表示される“PROJECT”画面でファイルを取り込んだプロジェクト“PROJECT01”の右の“➡”ボタンを押し、フォルダー選択画面を表示します。
3. ファイルを取り込んだフォルダー“SCENE004”を選択（背景が黄色のハイライト表示）します。
4. “MENU”ボタンを押して表示されるプルアップメニューの中の、“REBUILD”ボタンを押します。



再構築中は、進行状況をポップアップウィンドウ内に表示します。再構築が完了すると、ポップアップウィンドウが消えます。取り込んだファイルは、テイクとして認識されます。

ヒント

プロジェクト選択画面でプロジェクトを選択し、“MENU”ボタンを押して表示されるプルアップメニュー項目内の“REBUILD”ボタンを押すことでプロジェクト単位での再構成を行うことや、プロジェクト選択画面でプロジェクトを選択せずに“MENU”ボタンを押して表示されるプルアップメニュー項目内の“REBUILD”ボタンを押すことでCFカード全体の再構成を行うことができます。ただし、上の階層で行うほど時間がかかります。